

## 国際自転車ロードレース大会(ツアー・オブ・ジャパン)の市内実施について

このことについて、本日、主催者事務局である(一財)日本自転車普及協会により、2021年大会から新たに(仮称)相模原ステージが加わる旨が発表されましたので、お知らせします。

なお、これに伴う市長コメントにつきましては、次のとおりです。

実施に向け、引き続き、地域の皆様や関係機関の御理解及び御協力をいただきながらコースに係る調整等の準備を進めてまいります。

### 【市長コメント】

本市ではこれまで、東京2020オリンピック競技大会における自転車ロードレース競技のレガシーとして、国際自転車ロードレース大会の市内誘致に取り組んでまいりました。この度、2021年からの実施が決定し、嬉しく思っております。

ツアー・オブ・ジャパンは、国内最大規模かつ唯一の都府県をまたぐステージレースとして、「日本版ツール・ド・フランス」と称されることもあり、多くのサイクリストから注目されているレースです。

本市としては、2021年からの継続的なステージの実施を通じ、国内外から訪れる選手や観客の皆様に都市と自然が織りなす本市の魅力に触れていただくとともに、市民の皆様がワンチームとなって盛り上がることにより、新たな相模原の誇りに繋げてまいりたいと考えております。

2020年のツアー・オブ・ジャパンについては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止となる旨が発表されておりますが、この困難を乗り越え、2021年大会は大成功を収められるよう、主催者、関係団体等とともに着実な準備に取り組んでまいります。

問合せ先  
オリンピック・パラリンピック推進課  
電話 042-851-3248

# 「ツアー・オブ・ジャパン (NTN presents Tour of Japan)」の概要

別紙

国内において、最大規模かつ唯一の都府県をまたぐステージレース。(日本版ツール・ド・フランス)  
国内で開催されているUCI(国際自転車競技連合)公認レース(7レース)の一つとして、1996年以降22回開催。



## 全体概要 (2019年)

主催	自転車月間推進協議会 主管: ツアー・オブ・ジャパン組織委員会(事務局:(一財)日本自転車普及協会)
後援・協力	各府省庁(文部科学省、経済産業省、国土交通省ほか) 関係自治体等
開催日程	毎年5月中下旬の日曜日～翌週日曜日(8日間・8ステージ)
出場チーム	全16チーム(海外7チーム/国内9チーム) Team UKYOを含む。
チーム編成	9名(選手6名/監督1名/メカニック1名/マッサー1名)
協賛企業	NTN株式会社(冠協賛)、株式会社SUBARU、デサントジャパン株式会社、ヤマハ発動機株式会社、株式会社シマノ、株式会社明治 等 (メディア放映) BS日テレ 総集編(60分)として後日放映。スポーツブル(無料スマホ・PCニュースアプリ) 全ステージをインターネットライブ配信。 <b>BS日テレ SPORTS BULL</b>

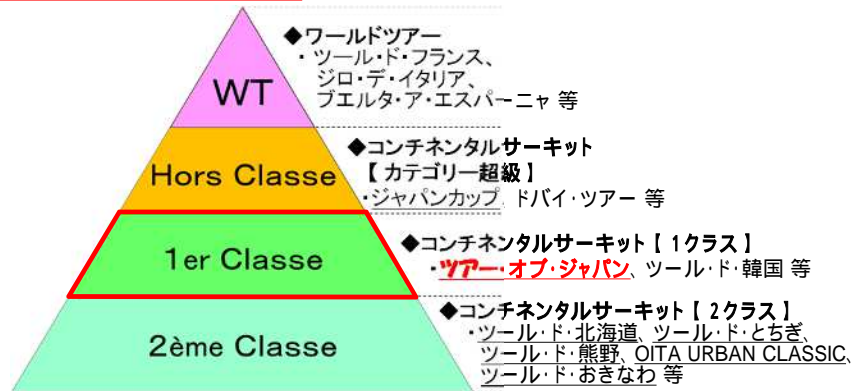
## 各ステージの概要 (2019年)

<b>第1ステージ【堺】(大阪府 堺市)</b> 2.6km(個人タイムトライアル) 獲得標高 = 10m <b>第2ステージ【京都】(京都府 京田辺市 精華町)</b> <バレード3.8km> + <4.2km + 16.8km x 6周 = 105.0km> 獲得標高 = 1,836m <b>第3ステージ【いなべ】(三重県 いなべ市)</b> <バレード3.1km> + <8.6km + 14.8km x 8周 = 127.0km> 獲得標高 = 1,650m <b>第4ステージ【美濃】(岐阜県 美濃市)</b> <バレード4.0km> + <11.6km + 21.3km x 6周 = 139.4km> 獲得標高 = 1,218m	<b>第5ステージ【南信州】(長野県 飯田市)</b> <バレード7.3km> + <12.2km x 10周 + 1.6km = 123.6km> 獲得標高 = 2,580m <b>第6ステージ【富士山】(静岡県 小山町)</b> <バレード6.2km> + <8.5km + 8.3km + 19.2km = 36.0km> 獲得標高 = 1,760m <b>第7ステージ【伊豆】(静岡県 伊豆市)</b> <12.2km x 10周 = 122.0km> 獲得標高 = 3,750m <b>第8ステージ【東京】(東京都 大田区・品川区)</b> <バレード3.8km> + <7.0km x 16周 = 112.0km> 獲得標高 = 50m
---	---



## UCI公認レースカテゴリー

下線部は、国内レース



## ツアー・オブ・ジャパン(TOJ)の地域貢献活動

子供たちがプロ選手たちに憧れを抱き、競技に興味を持つための環境づくりを推進。  
例) 自転車安全教室の実施、表彰式にキッズプレゼンターが登場 等

各ステージ毎に、出場する国内チームを「ホームチーム」として設定。当該チームは、レース期間外にも「ホームステージ」を訪問し、子供たちとの交流イベント、強化合宿等を実施。



(子供向け自転車安全教室) (2018年表彰式のキッズプレゼンター) (ホームチームの応援) (選手と子供達との交流イベント)